

北海道医師会役員

就任のご挨拶

北海道医師会常任理事 就任のご挨拶

常任理事

札幌市医師会

札幌美しが丘脳神経外科病院 副院長

しら きま しゅう いち
白 崎 修 一



この度、北海道医師会常任理事を拝命しました白崎修一です。私は、1983年に弘前大学を卒業し、同大麻酔科に入局、青森県内および函館渡辺病院、市立室蘭総合病院、苫小牧市立病院等に勤務し、1990年からはニューヨーク医科大学麻酔科に所属いたしました。さらに、1994年からは8年間、総合病院釧路赤十字病院に麻酔科医として働いておりました。2002年にご縁あって特定医療法人北楡会開成病院に移り、当時札幌市医師会理事であり旧知の仲である今真人氏からのお誘いを受けて札幌市医師会に入会いたしました。

札幌市医師会での活動において、北区支部、東区支部、手稲区支部に所属し、広報や政策委員会等に関わってまいりました。2013年からは札幌市医師会理事として活動し、主に救急医療、夜間急病センターの担当をしてまいりました。

近年、高齢者の救急搬送困難事例が増えており、さらにコロナ禍による発熱患者の増加によって札幌市だけでなく、全道の救急医療および入院医療体制が逼迫していることは記憶に新しいことと思います。札幌市の救急医療体制は2004年に見直されましたが、社会環境や医療環境の大きな変化を踏まえ、新型コロナウイルス感染症などの新たな感染症が医療に与える影響を考慮し、2022年度にはさらなる大幅な見直しが見込まれました。具体的には、救急患者情報の「見える化」システムの導入、救急医療の継続的な評価・見直しにかかる協議体の設置、拠点的な医療機関に対する支援、後方支援体制の整備などが行われました。私は、札幌市救急医療体制検討委員会のメンバーとしてこの作業に参加し、非常に有意義な経験を積むことができました。その経験を生かしながら、今後の北海道医師会活動において皆様のお役に立てるよう努めてまいります。ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

北海道医師会常任理事 就任のご挨拶

常任理事

北海道大学医師会

北海道大学大学院医学研究院医学教育・国際交流推進センター 准教授

むら かみ まなぶ
村 上 学



この度、北海道医師会常任理事を拝命しました村上学と申します。私は、生まれも育ちも札幌で、2005年に北海道大学医学部を卒業し、北見赤十字病院、北海道大学病院で初期臨床研修を行った後、2007年に北海道大学大学院医学研究科医学専攻博士課程に入学し、北海道大学医学部附属病院総合診療部の教授であった前沢政次先生の門下生として、プライマリ・ケアに関する臨床を学びつつ、医学教育（カリキュラム評価）に関する研究を行って学位を取得しました。その後、2011年に北海道大学で教員として採用された後、現在の所属に至るまで12年以上、医学部全体の教育活動や医学生の国際交流関連事業に注力して参りました。現在は、卒前医学教育を主に担当しております。北海道医師会の会員の先生方におかれましては、平素より、北海道大学医学部医学科の学生、並びに、北海道大学病院の研修医の教育に関して特段のご高配を賜り、この場を借りて、厚くお礼申し上げます。

今回、北海道大学医師会会長の渥美達也先生から常任理事就任のお声掛けをいただきました。経験の少ない若輩者に重責が務まるだろうかと不安な気持ちもございましたが、役員の方のご挨拶の際には、大学時代の部活の先輩で日本医師会常任理事に就任された笹本洋一先生もサポートして下さいました。大役を仰せつかった責任の重さに身の引き締まる思いであります。役員会務分担としましては、産業保健部部長を拝命いたしました。職務内容は、産業保健活動の推進に向けた北海道労働局、北海道産業保健総合支援センターとの連携・協力のほか、日本医師会認定産業医制度にかかわる産業保健各種研修会を開催し、産業医の資質向上等を図ることです。少しでも早く習熟できるように、ご高名な諸先輩の先生方にご指導賜りながら、事業第三課の事務担当者の方々にも助けていただき、精一杯、邁進して参ります。

末筆ではございますが、今後、少しでも皆様のお役に立てるよう、微力ながら最善を尽くして参りますので、今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、何卒、よろしくお願い申し上げます。

北海道医師会理事に就任して

理事

北広島医師会

医療法人社団翔仁会輪厚三愛病院 理事長

つし ま のぶ やす
對 馬 伸 泰



この度北海道医師会理事に就任した北広島医師会所属の對馬伸泰と申します。北海道医師会の役員に就任するのは初めてで仕事内容も全く未知の世界なのでこれから勉強しなければならないと身が引きしまる思いです。

私の所属する北広島医師会は昨年創立40周年を迎えました。当時開業されていた先生方の多くはリタイヤされ医師会の若手医師に引き継がれたり、二世の先生が後を継いだりして世代交代が進んでいます。若手の先生は体力的にも馬力にあふれ医師会活動にも積極的にかかわってくださり頼もしい限りです。一方で北海道全体をみると医師の偏在および医療機関の偏在が進んでいるような印象を受けます。これまで地域医療を支えてきた医療機関の経営者が高齢化や後継者不在のためあちらこちらで世代交代の時期を迎えています。最近盛んに医療機関のM&Aが行われているのもそのような時代の流れなのかもしれません。

現在のみならず未来においても地域医療は必要不可欠な資源であり守っていかなければなりません。しかしながら北海道は広大な面積を有しています。しかも多くの道内地方都市は人口減少、少子高齢化が進んでいます。

今後は二次医療圏ごとに医療機関の適正配置、ICTを活用したデジタル医療が喫緊の課題になってくるでしょう。都市部の専門医と地方の医療機関がデジタルネットワークで結ばれ外来を行うなど一般的になってくるかもしれません。北海道医師会は自治体と綿密に協議してこれらの課題に取り組んでいかなければならないと思っています。

就任のご挨拶

理事

函館市医師会

こにし内科・心臓血管クリニック 理事長・院長

こ にし ひろ あき
小 西 宏 明



このたび北海道医師会理事に就任致しました小西宏明です。よろしく申し上げます。私は昭和62年に京都大学医学部を卒業し、虎の門病院外科研修医（前期4年、後期2年）となりました。後期1年時に米国ピッツバーグ大学心臓胸部外科に留学し3年間人工心臓の研究に従事しました。同時期に小松幹志先生（日高医師会長）、山崎健二先生（北海道循環器病院長 先進医療研究所長）、川原田修義先生（札幌医科大学心臓血管外科教授）、さらに移植外科には藤堂省先生（元 北海道大学消化器外科・一般外科教授）、古川博之先生（旭川医科大学理事・副学長）がおられました。

帰国後は18年間、自治医科大学心臓血管外科で診療しながら、平成16年からは大学病院としては全国後発組の電子カルテ導入に奔走し、平成21年から函館の医療連携システム「道南MedIka」を参考に栃木県に「とちまるネット」を長島公之先生（日本医師会常任理事 長島外科院長）のご高配を得ながら立ち上げて参りました。

最終4年間は病院長補佐として2代の病院長の下で病院の運営に携わりました。特に平成24年に着任された永井良三学長（元 東京大学医学部附属病院長）からは病院経営を中心に多くのお叱りを頂戴しながらご指導賜りました。

昨今医療は医療機関同士の役割分担と相互協力が不可欠となり連携システムの重要性は高まっております。そのITシステムの根幹をなすID-Linkというアプリケーションや函館での運営方法に医療のみならず介護との連携への将来性を悟り、平成26年に函館市にて自らクリニックを開業しました。生まれて初めての北海道での生活のスタートでした。

本年4月より諸般の事情もあり函館市医師会副会長を拝命した次第ですが、理事としても未だ5年であり、医師会活動について勉強している最中です。このたび道医師会の理事の任をいただき、非常に身の引き締まる思いと共に諸先輩方の歩みに追いつくべく自らの経験を活かしながら頑張る所存でございます。何卒、ご指導ご鞭撻の程よろしく申し上げます。

北海道医師会代議員会議長 就任のご挨拶

代議員会議長
美唄市医師会

医療法人社団井門内科医院 理事長・院長

井 門 明



6月17日の第164回定時代議員会において北海道医師会代議員会議長に選任いただきました。代議員会の3週間前まではこのような事態になるとは想定しておらず、吃驚とともに重責に身の引き締まる思いです。

私は1986年旭川医科大学を卒業後、同大第一内科学講座（現在の内科学講座 循環・呼吸・神経病態内科学分野）に入局しました。その後、大学病院や関連病院での研修、勤務と2年間の米国留学を経て、2002年に父が開業しておりました美唄市に戻り、井門内科医院副院長として働くことになりました。同時に医師会へ入会させていただきました。2006年に美唄市医師会理事、2007年に副会長、2009年に美唄市医師会の会長に選任され、同時に北海道医師会の代議員となりました。当時48歳でしたので、若輩の私が会長をお引き受けするのは早いと一度は辞退しましたが、先輩諸氏の推薦を断ることはできませんでした。どうせお引き受けするのなら、私がどうしても成し遂げようと思ったのが、美唄市にタバコを規制する条例を作りたいということでした。医師会の理事会で承認を受け、美唄市医師会会長の立場で市長、市議会議員の全員と面談し、市民の健康を守るためには必要度が高い施策であることを何度も説明し、賛同してくれる多くの市民の協力も得て、最終的に7年越しで美唄市受動喫煙防止条例が成立しました。これを機に会長職を辞することを考えていましたが、北海道医師会の元副会長であり、高校の大先輩である宮本慎一先生から、北海道医師会の副議長に推薦したいのだが受けてくれないかのご依頼を受けました。宮本先生には、2012年にも日本医師会の医政活動研究会の北海道代表に推挙され、お断りできなかった経験があり、並外れた説得力には受諾以外の返答はありませんでした。そして4年後の今年、このような事態となりました。消極的な経緯で恐縮ですが、お引き受けしたからには全力で職務を全うする覚悟です。微力に至らないことが多々あるかと思いますが、皆様の優しいご指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

副議長就任のご挨拶

代議員会副議長
函館市医師会

国立病院機構函館病院 特別院長

大 原 正 範



此度、北海道医師会代議員会副議長に就任いたしました大原正範と申します。

私は、都立国立高校を卒業後、昭和54年北海道大学に入学。昭和60年に卒業後、第二外科（田邊達三教授）に入局。

北大麻酔科と関連病院研修後、国立がん研究センター中央病院に食道外科レジデントとして三年間国内留学、恵佑会札幌病院を経て1999年から国立函館病院で勤務しています。

2014年から2016年まで病院長で、その後特別院長として現在に至っています。

函館市医師会では、2014年から理事、2016年から副会長、夜間急病センター運営委員長等をしていましたが、2023年4月から会長を務めさせていただいております。

現在の自分の状況については想定していなかった部分が大きいのですが、自分の役割を一生懸命にやる所存です。

会員の皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

